

若い世代にとってのCSRとは何か？

世界銀行におけるCSRの取り組み なぜ世界がCSR？

世界銀行(世銀)はワシントンに本部を置く国際機関で、加盟約190カ国、世界100カ国以上に現地オフィスを置いている。貧困削減をそのトップ・プライオリティに掲げ、発展途上・体制移行各国に対して、政策・プロジェクトに対する融資・アドバイス・技術支援をおこなっている。

一般的には、「途上国への開発・支援活動をおこなっている世銀がなぜ？」という向きもあろう。

もちろん、2000年に国連総会で採択されたミレニアム開発目標に向かっての具体的な努力、貢献はおこなっている。しかし、貧困削減への対応のひとつの大きな柱として、民間部門主導による発展を掲げていることから、民間企業部門の役割・役割、社会とのかかわりについて、いろいろと議論をおこなっているのである。

この民間主導の発展は、いわゆる「グローバル化」のなかで議論が起きているように、その貿易・投資の側面からみると、先進国あるいは途上国だけの問題ではない。ややもすれば陥りやすい、先進国主導型の論理だけでも、安定的・持続的成長を見込むことはむずかしい。

とくに発展途上国・体制移行国の観点から、上記のような立場の違いによる見方・考え方をより高め、深めていこうというのが世銀としてのCSRへの基本的アプローチだ。したがって、CSRに関する特定のルール・考え方を提案していくものとは、その立場がやや異なる。多様な経済基盤、産業構造、社会体系、自然・労働環境などを考慮しつつ、より広いステークホルダーとの議論へと発展させていこうというものなのである。

世銀グループのなかでのCSRへの取り組み状況として、まず分野別には民間セクター部門(Private Sector Development)での取り組みを紹介したい。わたしたちは、民間部門としての主体的な取り組み、企業統治(Corporate Governance)をさらに広く社会・コミュニティとの関連で捉えようとしていることに加え、政府・公共部門としての役割・課題についても、大きな関心をもって取り組んでいる。持続的開発部門(Sustainable Development)では、環境保護の立場から、あるいは途上国でのコミュニティから見た立場からのCSRについての対応がなされている。これら以外にも、インフラ、エネルギー、貿易・投資といった部門でも取り組みが本格化している。

若い世代との対話が実現した 2004年2月のe-Conference

世銀グループの世界銀行研究所(WBI=World Bank Institute)がこれらをまとめたり、対内・対外的な教育訓練機関として各種プログラムを提供したりしている。その内容は多岐に渡るが、主として開発政策課題を取り上げており、各国の政府当局者、関連公共機関、民間セクターの関係者、世銀グループスタッフなどに対してプログラムが実行されている。WBIはワシントンや各地でセミナーなどを開催するほか、オンラインでの講座・ディスカッションもおこなっており、世界各地の参加者を活発に集めている。

最近人気を博したイベントは、2004年2月に1,000名を超える参加者が集まっておこなわれた若い世代向けのe-Conferenceである。2月9日から3週間にわたって、インターネットを通じてのオンライン・ディスカッションがとても活発にお

こなわれた。

若い世代 (Youth) へ焦点を合わせたのは、世界の持続的成長を考えるにあたり、今後を担う、また今後のリーダーとなっていく若い世代に対してCSRの観点からも内容を理解してもらおうというねらいからである。2001年来、世銀グループで取り組みが本格化している、「若い世代が意見・主張を述べることができる機会をより多くつくっていきこう」というイニシアチブの一環でもある。企業家や政府・大学・研究機関などのCSR推進の主体組織からも、強くこれをサポートする動きがある。このような背景から、このプログラム作成にあたっては、主として米国の大学・学生などとのパートナーシップによっておこなわれ、当初の段階から若者の声を反映するような配慮・取り組みがなされている。

その内容の一端をご紹介したい。議論は「21世紀におけるリーダーシップとは？」からスタート。ガバナンス、社会的責任、説明責任など、ビジネス倫理の基本項目について話し合った。次に、若い世代から見た経済・社会活動への参加の問題(すなわち教育の果たす役割)、若い世代の発言の重み、そして若い世代で構成している起業組織・団体の意義を討議した。そして第3週には、若い世代がどのように貢献できるか、その果たし得るポテンシャルを検討した。

e-Conferenceにおける議論のなかで注目すべき点のひとつは、若い世代の悩みとして、その提案・コメントは意義があり一考に値するものが多いと信じるが、企業社会での実績が無い点の一部の学生起業団体を除いていかんともしがたい。提案内容の信用力をどのように確立していくかにつ

いては、自分たちだけで解決することは難しい。この点において、国際機関や政府などからの支援・サポートを期待している——というものである。

この e-Conference の内容は現在、鋭意取りまとめ中であり、2004年5月25日～27日に上海で開催予定の貧困削減会議で発表する予定になっている。

余談ではあるが、わたしの所属する旧ソ連・東欧地域からの参加者も多く、当地域における関心の高さを示している。アジアからの参加は残念ながらいまひとつで、日本からの参加登録はゼロに近かったとのこと。今後の盛り上がりを切に期待したい。

[参考リンク]

- ・ 世界銀行研究所(World Bank Institute)— CSR
- ・ WBI e-Conference 若者と未来の指導者の役割は何か(2004年2月9日～27日)
- ・ 世銀貧困削減 上海会議
2004年5月25日～27日

泉 泰雄

(いずみ やすお)

世界銀行 欧州・中央アジア総局

産業金融開発局

セクターマネージャー

1998年から現職。ワシントン在住。旧ソ

連東欧地域の産業・金融部門開発・支

援業務の責任者。経済・社会両面でバ

ランスのとれた開発・発展をめざす。

経営課題としての企業統治・企業倫理・

CSRから、中小企業、インキュベーター、

経営能力開発、金融セクターとのリン

ケージなどまで幅広く担当。神戸大学

大学院国際協力研究科客員教授。FRI &

Associates (NPO) シニア・アドバイザー

。ワシントンDC開発フォーラム幹事、同「開発人材」グループ等フォーカル

ポイントもこなす。1991年～1994年は欧州復興開発銀行、それ以前は日本興業

銀行(現みずほファイナンシャル・グループ)に勤務。パリ経営大学院修士。

